

ギターからハーモニカまで飛び出す、心暖まる癒しのコンサート。
大自然の中を旅しているような気持ちにさせてくれるジョージ・ウINSTONのピアノ。

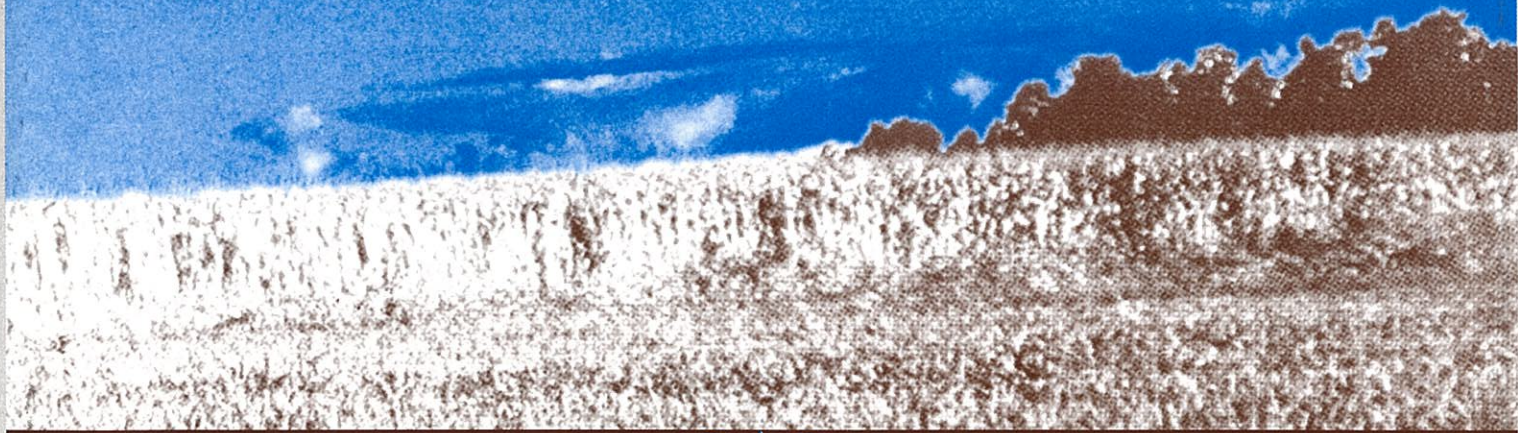


～心の美術館～

ジョージ・ウINSTON

ソロ・ピアノ・コンサート

GEORGE WINSTON Solo Piano Concert



4月3日(火) 6:30PM開演

たんば田園交響ホール TEL(0795)52-3600

一般 ● 5,000円

学生 ● 1,000円

主催 / 篠山市

プレイガイド

市外局番はすべて(0795)

《篠山市内》

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| ● 小山書店 ☎52-0019 | ● 黒豆の館 ☎90-8077 |
| ● 森本書房 ☎52-0125 | ● JA丹波旅行センター ☎94-3090 |
| ● 木下楽器 ☎52-0321 | ● リプロ ☎94-0188 |
| ● サワヤマ楽器 ☎52-2019 | ● NEWS篠山総合サービスセンター ☎94-3700 |
| ● みずほトラベル ☎52-4488 | ● 今田公民館 ☎97-2255 |

《氷上郡内》

- | |
|-----------------------|
| ● 柏原観光案内所 ☎73-0303 |
| ● 丹波の森公苑 ☎72-5170 |
| ● 春日町文化ホール ☎74-1050 |
| ● ライフピアノいちじま ☎85-3030 |

《三田市内》

- | |
|----------------------------|
| ● 三田サティ3Fサービスコーナー ☎64-2121 |
| ● 阪急オアシスえるむプラザ店 ☎65-1148 |

George Winston

ジョージ・ウィンストン・バイオグラフィー

モンタナで育ったジョージ・ウィンストンは、1950年代からラジオを聴き始めた。フロイド・クレイマー(“Last Date”)、ベンチャーズ(“Walk・Don't Run”)、ブッカー・T・アンド・ジ・エム・ジーズ(“Green Onions”)といった大勢のアーティストが活躍したポップ・インストルメンタルの全盛時代だ。ジョージのメロディックで印象派的なスタイルは、フォーク・ミュージック以外にもそういったところから影響を受けており、彼自身はそれを「ルーラル(田舎風)・フォーク・ピアノ」、あるいは「フォーク・ピアノ」と呼んでいる。ジョージはこのほかに、長年研鑽を積んできた二つのスタイルでも演奏する。1971年からストライド・ピアノを習い始め、トマス“ファッツ”ウォラー(“Ain't Misbehavin'”や“Honeysuckle Rose”)といったスタンダード・ナンバーの作曲者の1930年代のレコーディング作品や、かの偉大なベニー・グッドマン・トリオおよびカルテットで演奏した故ティ・ウィルソンから最も多大な影響を受けている。



現在はリズム&ブルース・ピアノを研究中で、特にニューオリンズのピアノの巨匠たち、故プロフェッサー・ロングヘア、故ジェイムス・ブッカー、ヘンリー・パトラーからインスピレーションを受けている。ジョージの次のソロ・ピアノ作品は、リズム&ブルース/ダンスのアルバムになるだろう。

ジョージ・ウィンストンのディスコグラフィには、バラッズ・アンド・ブルース1972(1972)、オータム(1980)、ウインター・イントゥー・スプリング(1982)、ディセンバー(1982)、サマー(1991)、フォレスト(1994)、ライナス&ルーシー(1996)といった作品がある。1962年の“Cast Your Fate to the Wind”でガラルディの生き活きとしたジャズを初めて耳にしたジョージは、この伝説的アーティストがピーナッツ・シリーズのテレビアニメ特別番組のために作ったサウンド・トラックからたくさんの曲を取り上げてアルバムを作った。

ジョージはまた、4本の子供向けアニメ・ビデオのために、ソロ・ピアノおよびソロ・ギターによるサウンドトラックをレコーディングしている。ヴェルヴェティーン・ラビット(1984-ナレーションはメリル・ストリーブ)、THIS IS AMERICA、CHARLIE BROWN-THE BIRTH OF THE CONSTITUTION(1988-このサウンドトラックでは主にヴィンス・ガラルディの曲を使用)、さだ子と千羽鶴(1995-ナレーションはリザ・ウルマン)、そしていちばん新しいところでは、PUMPKIN CIRCLE(1997-ナレーションはダニー・グローヴァー)だ。

1985年、ジョージは、ケオラ・ピーマー、故サニー・チリングワース、ジョージ・カフモク、レイ・カーネ、オジー・コタニ、ジョージ・クオ、そしてシリル・パヒヌイといったハワイアン・スラック・キー・ギターの名演奏家たちのレコーディングを手がけ始めた。彼のレーベル、ダンシング・キャットのスラック・キー・ギター・マスターズシリーズからはすでに25作品がリリースされており、これからも続々と作品が出る予定だ。スラック・キーというのは、1800年代初頭(スチール・ギターに60年以上先んじている)にハワイで始まったフィンガー・ピックによる由緒あるギター奏法の名称だ。このシリーズをプロデュースするに当たってジョージは、前出のアーティストたちに、ソロ・ギターのフォーマットで複数のアルバムをレコーディングしてレパートリーのすべてを披露することを奨励してきた。ジョージ自身、ハワイ史上最も偉大かつ多作なソングライター、デニス・カマカヒの作品をフィーチャーしたスラック・キー・ギターのソロ・アルバムに取りかかっていることになっているし、ピアノのソロ・コンサートでは、スラック・キー・ギターの曲をいくつかかならず取り入れている。

「自分の人生にはとても深いところで何か欠けていると気づいていたんだ。素晴らしいスラック・キー・ギタリストたちの演奏を聴いた瞬間、自分が探していたのはこれだと分かった。この音楽はもともとハワイのものだけど、僕には自分のルーツであるモンタナを感じさせてくれる。子供の頃、まわりに伝統的な音楽はなかったから、モンタナに対する自分の感情をギターで表現するうえでハワイの音楽的言語を借りているんだ。このサウンドは非常にユニークであると同時に、ある部分、とてもなじみ深い。深い感情から生まれたサウンド、独自の言葉で贈るサウンドなんだよ」



日本での大ヒット作収録アルバム「AUTUMN/オータム」を中心に気持ちのよい春のひとときをお楽しみ下さい。



「オータム AUTUMN」

日本でのブレイクをきっかけとなった「あこがれ/愛」を収録した、大ヒットアルバムにして最高傑作。「セプテンバー」と「オクトーバー」の2部構成となっており、その繊細なメロディは移り行く季節の叙情的な風景を思わせる。